

# 2009 年 1 月の東北地方の天候

## 【 1 月の特徴 】

- 高温
- 多雨
- 少雪
- 東北日本海側の多照

### （１）2009 年 1 月の概況

この期間、前半は冬型の気圧配置となる日が多かったが、東北地方には寒気の影響は小さく、後半は冬型の気圧配置となる日は少なかった。また、日本海や本州の南海上を通過した低気圧や前線の影響で暖かい空気が入ったため、東北地方は高温となり降水量は多くなったが、降雪量は少なかった。冬型の気圧配置の影響が小さかったため東北日本海側は多照となった。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方でかなり多い。月間日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で少ない。降雪の深さの月合計平年比は東北北部で 58% とかなり少なく、東北南部で 75% と少ない。

### （２）各旬の天候経過

**上旬：**この期間、冬型の気圧配置となる日が多かったが、東北地方には寒気の影響は小さく、気温の高い日が多かった。9 日から 10 日にかけて日本海と本州の南岸を低気圧が北東進したため、各地で雪や雨となり大雪となったところもあった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

**中旬：**期間の前半は、上空に強い寒気を伴った低気圧が日本海をゆっくり進むことが多く、低気圧の通過時には東北日本海側を中心に雪となった。また、寒気の影響により気温の低い日があった。期間の後半は、低気圧や気圧の谷と高気圧が交互に通過し、冬型の気圧配置となる日は少なかった。このため、東北日本海側では日照時間が多くなった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

**下旬：**期間の前半は、南岸低気圧や前線、冬型の気圧配置の影響により、曇りや雪または雨の日が多かった。期間の後半は、冬型の気圧配置は弱まり晴れの日もあったが、31 日には南岸低気圧の影響で東北太平洋側を中心に大雪となった。本州の南岸を低気圧や前線が通過することが多かったため、暖かい空気が入り気温は高くなり、東北太平洋側では平年に比べて日照時間が少なかった。

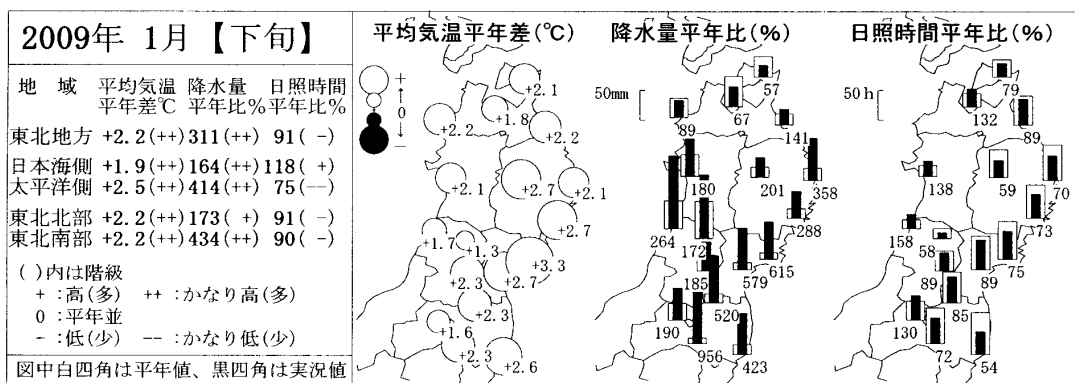
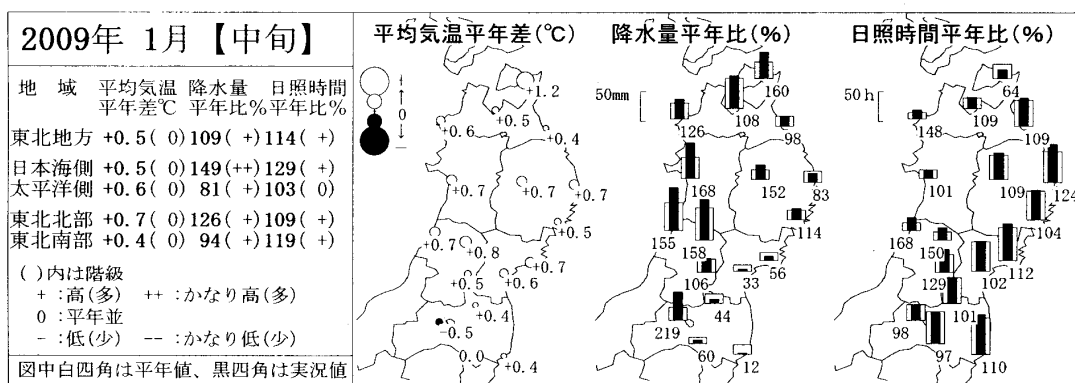
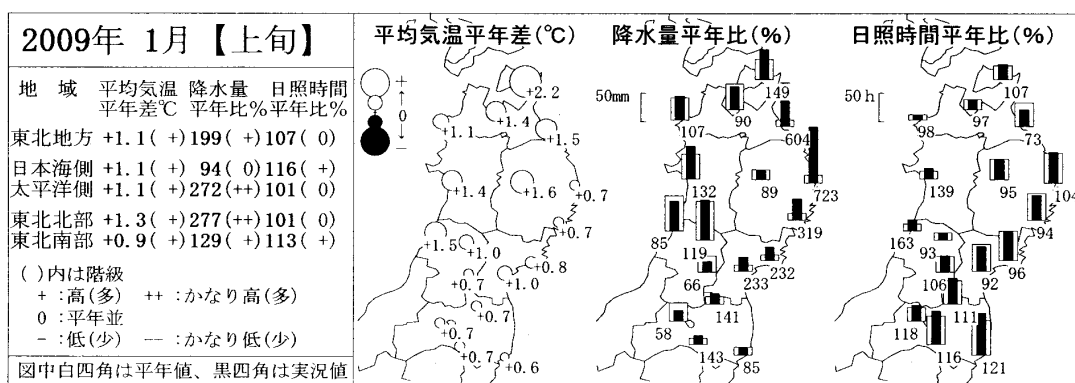
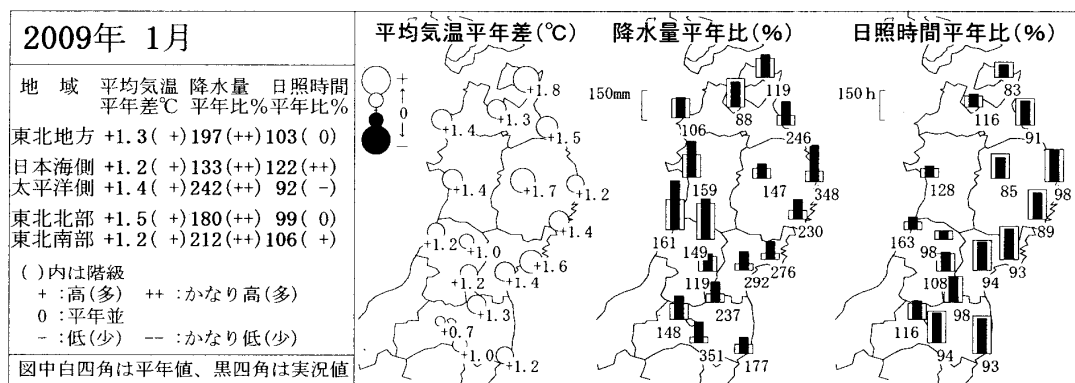
平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり少ない。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

### (3) 2009年1月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

#### (4) 2009 年 1 月の月気候表

地 点 名		平均気温(平年差)			階級	降水量(平年比)			階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)			階級	降雪深さ(平年値)			階級	最深積雪(平年値)			階級
		(℃)	(℃)			(mm)	(%)				(h)	(%)			(cm)	(cm)			(cm)	(cm)		
青 森 深 浦		-0.1	(+1.3)	+	127.5	( 88)	○	18	65.6	( 116)	+	158	( 250)	—	63	( 86)	—					
		1.0	(+1.4)	+	103.0	(106)	+	17	41.9]	(    )		74	( 123)	—*	24	( 31)	○					
(統計日数:24)																						
む つ 八 戸		0.2	(+1.8)	+	114.5	(119)	+	14	64.0	( 83)	—	107	( 175)	—*	30	( 47)	—					
		0.3	(+1.5)	+	118.5	(246)	++	7	122.1	( 91)	—	49	( 95)	—*	18	( 18)	○					
秋 田		1.3	(+1.4)	+	182.0	(159)	++	20	57.1	( 128)	+	108	( 142)	—	32	( 31)	○					
盛 岡 大 船 渡 宮 古		-0.4	(+1.7)	+	74.5	(147)	+	12	106.0	( 85)	—	55	( 106)	—*	20	( 27)	○					
		2.1	(+1.4)	+	100.0	(230)	++	9	132.9	( 89)	—	5	( 23)	—*	3	( 7)	—					
		1.4	(+1.2)	+	183.0	(348)	++	9	160.0	( 98)	○	33	( 43)	○	22	( 12)	+					
仙 台 石 巻		2.9	(+1.4)	++	96.5	(292)	++	7	142.5	( 94)	—	6	( 29)	—*	6	( 11)	—					
		2.1	(+1.6)	++	91.5	(276)	++	9	156.1)	( 93)	—	29	( 13)	++	22	( 8)	++					
山 形 新 庄 酒 田		0.7	(+1.2)	+	89.5	(119)	+	16	96.4	( 108)	○	102	( 163)	—	37	( 37)	○					
		-0.3	(+1.0)	+	270.5	(149)	++	23	42.4	( 98)	○	221	( 283)	—	91	( 97)	○					
		2.7	(+1.2)	+	246.0	(161)	++	22	65.1	( 163)	++	106	( 138)	—	34	( 27)	○					
福 島 若 松 白 河 小 名 浜		2.7	(+1.3)	+	104.0	(237)	++	8	133.9	( 98)	○	13	( 86)	—*	8	( 18)	—					
		0.0	(+0.7)	+	119.5	(148)	++	13	94.2	( 116)	+	117	( 185)	—	38	( 44)	○					
		1.2	(+1.0)	+	107.5	(351)	++	6	151.6	( 94)	—	35	( 58)	—	13	( 14)	○					
		4.8	(+1.2)	+	82.0	(177)	+	9	176.3	( 93)	—		(    )			(    )						

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い)      ○:平年並      -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には

かなり高い(多い)      かなり低い(少ない)

と表現できる。

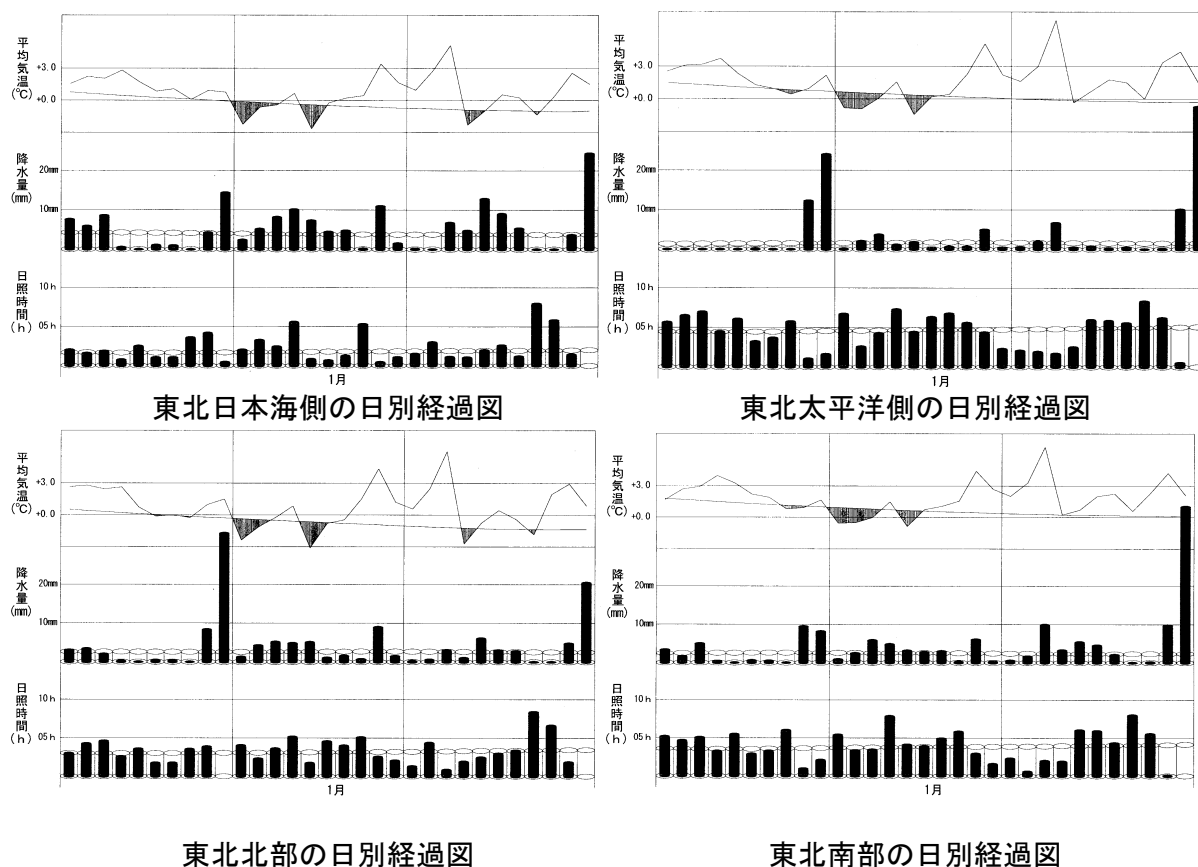
また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に「)」や「]」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

4. 小名浜測候所が平成20年10月1日に特別地域気象観測所へ移行したことに伴い、小名浜の降雪および積雪の観測は終了した。

## (5) 2009 年 1 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

## (6) 2009 年 1 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	白河	107.5	351	102.0 (2002)	1940	30.6

月降水量少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
2	酒田	65.1	163	66.9 (2007)	1937	39.9

月間日照時間少ない方からの順位更新

3位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

3位以内はなし

月最深積雪大きい方からの順位更新

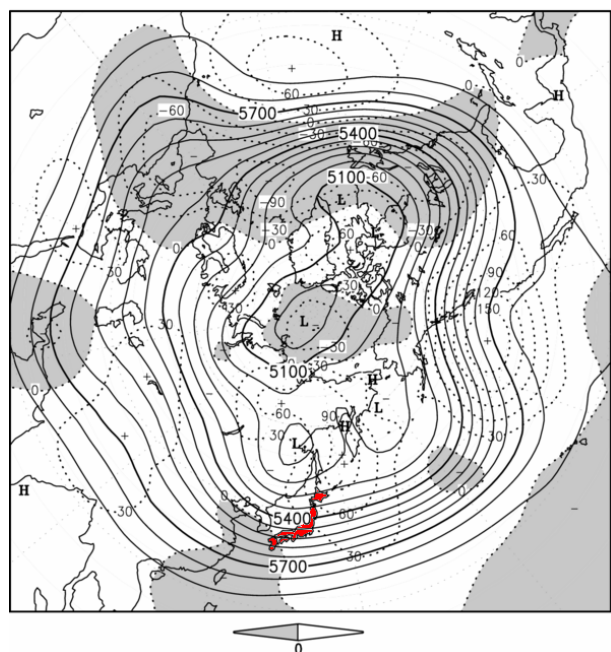
3位以内はなし

(注) 平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 2009 年 1 月の循環場の特徴

500hPa 高度では、ヨーロッパ付近の負偏差、地中海東部の正偏差、中東の負偏差などの波列状の偏差パターンが明瞭で、東シナ海付近が負偏差となり、九州以西が負偏差におおわれた。日本付近は西谷傾向であり、低気圧や前線の影響を受けやすく、東北地方は降水量が多かった。

一方、シベリアからオホーツク海付近にかけて正偏差が明瞭で、北日本は正偏差におおわれ、寒気の影響を受けにくい大気の流れとなった。東北地方は、寒気の南下が弱く気温が平年を上回る日が多かった。



2009 年 1 月の平均 500hPa 高度

実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎  
陰影部は負偏差（寒気に対応）